

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ワタキューセイモア(株)城陽工場	階数	地上3F
建設地	京都府城陽市奈島フケ35-3、37-	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	60人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,817時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年3月 予定	評価の実施日	2010年5月18日
敷地面積	17,048 m ²	作成者	ワタキューセイモア(株)野坂英史
建築面積	1,730 m ²	確認日	2010年5月19日
延床面積	4,644 m ²	確認者	(株)塩見設計藤原義紀



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合 ・既存建物と調和し、緑に囲まれた建物とする。また工場として、従業員の作業環境及び周辺住宅地へ環境の双方に配慮した建物とする。		その他 ・敷地内で発生する残土は再利用し、土の搬出入量を抑える計画とする。
Q1 室内環境 ・開口部を多く設け、通風性のよい建物とする。 ・面積の大きい作業エリアについては、室全体を空調するのではなく、人が常時いるエリアにスポット空調を行うことにより省エネ化を図る。	Q2 サービス性能 ・耐候性に配慮し、外部鉄骨は全て亜鉛メッキどぶづけ処理とし、外装仕上げは超耐候・超低汚染水性の吹付タイルとする。 ・バリアフリーに配慮し、スロープや多目的便所を設け	Q3 室外環境(敷地内) ・隣地境界に高木の生垣を巡らすことにより、敷地内外からの景観および視線の遮断に配慮する。
LR1 エネルギー ・南面にはカーテンウォール窓を採用するなど、自然光をなるべく取り入れるように配慮する。 ・水銀灯に代わる長寿命照明やLED照明など、省エネルギー照明を積極的に取り入れる。	LR2 資源・マテリアル ・陸屋根には、下地にコンクリートを使用しない耐火アスファルト防水とし、荷重を軽減させる。 ・断熱材にはノンフロン材を選定する。	LR3 敷地外環境 ・洗濯乾燥機の排気方向はなるべく住宅地側に向けないように配慮する。 ・住宅地側の2階以上の窓は型板ガラスを採用し、プライバシーに配慮する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい